

# 保健管理センター

## 1 構 成 員

	平成15年3月31日現在
教授	0人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	1人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	3人

## 2 教官の異動状況

永田勝太郎（講師）（期間中現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成14年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6編（6編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	10編（10編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	5編（4編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 永田勝太郎，実存分析学（ロゴセラピー）と慢性疼痛，痛みと漢方12: 5-12, 2002. 6. 15.
2. 永田勝太郎，コア・カリキュラムへの市民の期待，医学教育33(5): 316, 2002. 10. 25.
3. 永田勝太郎，梗塞性疾患の未病を治す：Oketsuとの関連，未病を治す漢方治療－高齢化社会に向かって－，日本東洋医学雑誌54(1): 47-68, 2003. 1. 20.

4. 森下克也, 永田勝太郎, 岡野 寛, 長谷川拓也, 大槻千佳, 六君子湯および柴胡加竜骨牡蛎湯が著効した身体表現性障害の1例, 漢方医学27(1): 23-25, 2003. 2. 1.
5. 糟谷修子, 永田勝太郎, 中村浩淑, 保健管理研究に関する一考察－保健管理研究集会における看護職の研究への取り組み－, CAMPUS HEALTH40(1): 238-239, 2003. 3. 1.
6. 永田勝太郎, 糟谷修子, 中村浩淑, 行動療法と実存分析学を組み合わせた神経性食欲不振症の治療, CAMPUS HEALTH40(1): 382-383, 2003. 3. 1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

### (2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの1.

### (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 永田勝太郎, ログセラピー (実存分析), ペインクリニック23(5): 687-695, 2002. 5.
2. 永田勝太郎, 店村真知子, 音楽療法の効果とそのエビデンス, 看護技術, 48(8): 4-10, 2002. 7. 20.
3. 永田勝太郎, 「心あるケア」に求められる患者を見つめる視点－メディカル・ヒューマニティを求めて, Healthカウンセリング, 5(2): 12-23, 2002. 7. 30.
4. 永田勝太郎, 静岡不眠症研究会から, メディカル朝日31(10): 34-35, 2002. 10. 1.
5. 永田勝太郎, たかが不眠, されど不眠－実地医家のための不眠の臨床, メディカル朝日, 31(11): 52-55, 2002. 11. 1.
6. 永田勝太郎, 倦怠・不快感のしくみと対応, JOHNS 18(12): 2001-2004, 2002. 12. 1.
7. 永田勝太郎, 人体の構造と機能Part1正常構造と機能, プチナース, 12(1) 別冊付録, 40, 2003. 1. 10.
8. 永田勝太郎, 本態性低血圧, Modern Physician23(1): 134-135, 2003. 1. 15.
9. 永田勝太郎, 人体の構造と機能Part2正常構造と機能, プチナース12(2) 45, 別冊付録, 45, 2003. 2. 10.
10. 永田勝太郎, 人体の構造と機能Part3生殖,発生,成長,発達,加齢, プチナース12(3) 別冊付録, 45,

2003. 3. 10.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 永田勝太郎, 実存カウンセリング, 駿河台出版社, 1-224, 2002. 4. 1.
2. Nagata K, Comprehensive Medicine: Its Philosophy and Methodology, ed. Becker C, Time for Healing-Integrating Traditional Therapies with Scientific Medical Practice, 217-245, Paragon House, Minnesota, USA, 2002. 5.
3. 永田勝太郎: 漢方薬の正しい利用法, 家庭の医学, 柳下徳雄編, 小学館, 828-835, 2003. 3. 20.
4. 永田勝太郎編著: 臨床のためのカウンセリング心理学 (上巻), 日本ライトハウス, 190, 2003. 3. 20.
5. 永田勝太郎編著: 臨床のためのカウンセリング心理学 (下巻), 日本ライトハウス, 192, 2003. 3. 20.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### (5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 永田勝太郎, 岡野 寛, 長谷川拓也, 大槻千佳, 実存分析と漢方療法で短期に解決した不登校の1例, 日本東洋心身医学研究17(1/2): 51-53, 2003. 2. 7.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### 4 特許等の出願状況

	平成14年度
特許取得数（出願中含む）	0件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成14年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件（万円）
(2) 厚生科学研究費	0件（万円）
(3) 他政府機関による研究助成	0件（万円）
(4) 財団助成金	0件（万円）
(5) 受託研究または共同研究	1件（786万円）
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	5件（300万円）

(5) 受託研究または共同研究

ファイザー製薬

#### 6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

#### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1件	9件
(2) シンポジウム発表数	3件	9件
(3) 学会座長回数	1件	3件
(4) 学会開催回数	2件	1件
(5) 学会役員等回数	8件	27件
(6) 一般演題発表数	5件	

(1) 国際会議等開催・参加：

1) 国際学会・会議等の開催

1. 組織委員，永田勝太郎，国際レーザー治療学会，つくば市，2002.6.1000人

2. シンポジウムのオルガナイザー；WHOシンポジウム，Nagata K, 12<sup>th</sup> World Congress of Psychiatry, Yokohama, 2002. 8. 参加者10000人

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. Nagata K, Pre-Congress Educational Symposium (WHO symposium): Recent Advances in Psychosomatic Medicine, The 10<sup>th</sup> Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine, Taipei, 2002. 9.

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Nagata K, The current advances in psychoneuroimmunology and psychoneuroendocrinology;

The Effects of Logotherapy to 17-KS-S and 17-OHCS, 12<sup>th</sup> World Congress of Psychiatry (WHO symposium), Yokohama, 2002. 8. 29.

2. Shimura N, Nagata K, Hatakeyama T, Oishi Y, Nishiyama Y, The current advances in psychoneuroimmunology and psychoneuroendocrinology; Health creation and self-organization, 12<sup>th</sup> World Congress of Psychiatry (WHO symposium), Yokohama, 2002. 8. 29.
3. Tanamura M, Nagata K, Ohtsuki C, The current advances in psychoneuroimmunology and psychoneuroendocrinology; A study of psychoneuroendocrinological effects of music therapy, 12<sup>th</sup> World Congress of Psychiatry (WHO symposium), Yokohama, 2002. 8. 29.

#### 4) 一般発表

##### ポスター発表

1. Nagata K, Morishita K, Hasegawa T, Okano K, Ohtsuki C, The role of comprehensive medicine in palliative care, 26<sup>th</sup> International Congress of Internal Medicine, Kyoto, 2002. 5. 29.
2. Nagata K, Morishita K, Hasegawa T, Okano K, Ohtsuki C, Psychophysiological Evaluation of Palliative Care, 11<sup>th</sup> World Congress of Psychophysiology, Montreal, 2002. 7. 31.
3. Nagata K, Okano K, Hasegawa T, Ohtsuki C, Morishita K, The Role of Comprehensive Medicine in Palliative Care, The 10<sup>th</sup> Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine, Taipei, 2002. 9. 28.
4. Nagata K, Okano K, Morishita K, Hasegawa T, Ohtsuki C, Existential shift and 17-KS-S and 17-OHCS, International Congress on Hormonal Steroids and Hormones and Cancer, Fukuoka, 2002. 10. 25.
5. Nagata K, Integration of Current Occidental Medicine and Traditional Oriental Medicine in Palliative Care, 中日医学大会2002, Beijing, 2002. 11. 6.

#### (2) 国内学会の開催・参加

##### 1) 学会における特別講演・招待講演

1. 永田勝太郎, 慢性痛の臨床評価－心理学的評価, 第36回日本ペインクリニック学会, 宮崎市, 2002. 7. 20.
2. 永田勝太郎, 全人的医療とは, 東京医科歯科大学大学院生体機能支援システム開発学・医療情報学合同講義, 東京, 2002. 7. 25.
3. 永田勝太郎, 全人的健康学, 平成14年度神奈川県教育職員免許法認定講習, 横浜市, 2002. 8. 8-9.
4. 永田勝太郎, 東洋医学と全人的医療学, 国立身体障害者リハビリテーションセンター特別講義, 所沢市, 2002. 10. 4.
5. 永田勝太郎, コエンザイムQ10の臨床的展開, 日本血行動態研究会, 東京, 2002. 10. 7.
6. 永田勝太郎, 全人的医療の実践に向かって, 日本東洋医学系物理療法学会第28回学術大会, 長野, 2002. 10. 19.

7. 永田勝太郎, 癌末期医療と伝統的東洋医学, 東洋医学会長野県部会, 松本市, 2002. 11. 10.
8. 永田勝太郎, 絶対に絶対に絶対にあきらめない健康創り, 日本毛髪科学協会, 東京, 2003. 1. 21.
9. 永田勝太郎, 実存療法によるカウンセリング, 日本心身医学協会, 福岡, 2002. 11. 23-24.

## 2) シンポジウム発表

1. 永田勝太郎, 森下克也, 梗塞性疾患の未病を治す: Oketsuとの関連, 第53回日本東洋医学会学術総会, 名古屋市, 2002. 6. 2.
2. 永田勝太郎, 森下克也, 岡野 寛, 長谷川拓也, 大槻千佳, 疼痛治療の場としてのレーザー治療, 第14回日本レーザー治療学会, つくば市, 2002. 6. 29.
3. 永田勝太郎, 岡野 寛, 長谷川拓也, 森下克也, 大槻千佳, 全人的医療と緩和医療, 第15回日本疼痛漢方研究会, 東京, 2002. 8. 3.
4. 永田勝太郎, 若年女性に多い低血圧ないし関連疾患, 第21回日本Oketsu学会, 広島市, 2002. 8. 10.
5. 永田勝太郎, 実存分析による慢性疼痛の治療評価, 第32回日本慢性疼痛学会, 京都, 2003. 2. 22.
6. 永田勝太郎, 慢性疼痛への代替医療の貢献, 第32回日本慢性疼痛学会, 京都, 2003. 2. 22.
7. 白島 庸, 永田勝太郎, 鍼に依る鎮痛効果並びに免疫力増強に関する研究, 第32回日本慢性疼痛学会, 京都, 2003. 2. 22.
8. 永田勝太郎, 岡野 寛, 長谷川拓也, 大槻千佳, 伝統的東洋医学を基盤に, 心身医学を駆使して治療した神経性食欲不振症(AN), 第39回日本東洋心身医学研究会, 東京, 2003. 2. 28.
9. 永田勝太郎, コエンザイムQ10の臨床医学・健康管理的課題と展望, 第1回日本コエンザイムQ協会総会, 東京, 2003. 2. 28.

## 3) 座長をした学会名

1. 永田勝太郎 (座長) 疼痛治療の場としてのレーザー治療, 第14回日本レーザー治療学会, つくば市, 2002. 6. 29.
2. Nagata K, (座長) 12<sup>th</sup> World Congress of Psychiatry, Yokohama, 2002. 8. 29.
3. 永田勝太郎, 第49回日本心身医学会中部地方会, 名古屋市, 2002. 3. 16.
4. 永田勝太郎, (シンポジウム座長) 慢性疼痛への代替医療の貢献, 第32回日本慢性疼痛学会, 京都, 2003. 2. 22.

## 4) 主催する学会名

こころとからだの痛みの研究会, 東京, 2002, 5.

## 5) 役職についている学会名とその役割

永田勝太郎, 日本バリント式保健医療協会 事務局長

永田勝太郎, 日本心身医学会 評議員

永田勝太郎, 日本自律神経学会 評議員  
永田勝太郎, 日本保健医療行動科学学会 評議員  
永田勝太郎, 日本尊厳死協会 理事  
永田勝太郎, 日本プライマリ・ケア学会 評議員  
永田勝太郎, 日本慢性疼痛学会 常任理事, 編集委員  
永田勝太郎, 日本心身医学協会 理事  
永田勝太郎, 日本レーザー治療学会 評議員  
永田勝太郎, 日本疼痛学会 評議員  
永田勝太郎, 日本Oketsu学会 理事  
永田勝太郎, 日本内科学会 東海地方会評議員  
永田勝太郎, 日本実存心身療法研究会 世話人代表  
永田勝太郎, 日本血行動態研究会 世話人代表  
永田勝太郎, 日本行動医学会 理事  
永田勝太郎, 日本歯科心身医学会 評議員  
永田勝太郎, Comprehensive Medicine (全人的医療) 編集委員長  
永田勝太郎, 日本教育臨床研究会 顧問  
永田勝太郎, 日本ストレス学会 評議員  
永田勝太郎, 日本疼痛漢方研究会 常任理事  
永田勝太郎, こころとからだの痛みの研究会 世話人代表  
永田勝太郎, 日本東洋療法試験財団 理事  
永田勝太郎, 日本心身医学会研修指導医・認定医  
永田勝太郎, 日本東洋医学会指導医専門医  
永田勝太郎, 日本内科学会認定内科医  
永田勝太郎, 日本温泉気候物理医学会認定温泉医  
永田勝太郎, 日本プライマリ・ケア学会認定医・指導医

## 国際

永田勝太郎, 中国心理衛生協会(Beijing) 名誉理事  
永田勝太郎, International Balint Documentation Center 名誉会員  
永田勝太郎, Institute of Viktor Frankl 理事, 編集委員  
永田勝太郎, Polish Academy of Medicine 名誉会員  
永田勝太郎, International Hippocratic Foundation of Kos 日本代表  
永田勝太郎, International Institute of Universalistic Medicine 名誉顧問  
永田勝太郎, International Foundation of Bio-Psycho-Social Health 理事  
永田勝太郎, International Albert Schweitzer Academy of Medicine 副総裁

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	3件	1件

### (1) 国内の英文雑誌の編集

1. 永田勝太郎，全人的医療（comprehensive medicine，日本実存心身療法研究会，日本パリント式保健医療協会，日本血行動態研究会），編集主幹，登録なし，IFなし
2. 永田勝太郎，痛みと漢方（疼痛漢方研究会） 編集委員，登録なし，IFなし
3. 永田勝太郎，慢性疼痛（日本慢性疼痛学会） 編集委員，登録なし，IFなし

### (2) 外国の学術雑誌の編集

1. 永田勝太郎，Journal of Viktor Frankl Institute Editorial Board，登録なし，IFなし

### (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. Journal of Viktor Frankl Institute Editorial Board, Austria

## 9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	7件
(2) 国内共同研究	6件
(3) 学内共同研究	0件

### (1) 国際共同研究

1. Boris Luban-Plozza（ハイデルベルグ大学）パリント法による面接技法ないしグループワークの運営方法の開発研究，QOL(Quality of Life)の客観的測定・評価方法の開発研究
2. Day, S.（WHO，ニューヨーク大学）全人的医療モデルに関する国際的合意，現代医学，伝統的東洋医学，心身医学の相互主体的鼎立に関する研究
3. Alexander Vesely（ウイーン大学）ロゴセラピー（実存分析）の臨床的応用に関する研究
4. Imielinski, K.（ワルシャワ大学）医療におけるヒューマニティの研究
5. Hampf, G.（ヘルシンキ大学）慢性疼痛患者への全人的アプローチの方法論の研究
6. Singh, A.（クイーンズ大学）心身医学と東洋医学の相互主体的両立,および精神薬理学に関する研究，WPA(世界精神医学会)などでWHOシンポジウムを共催
7. Ye Qi（日中友好医院）心身医学と東洋医学の両立に関する研究

### (2) 国内共同研究

1. 志村則夫（東京医科歯科大学歯学部）全人的医療に関する研究，WPA(世界精神医学会)などでWHOシンポジウムを共催
2. 店村真知子（聖隷クリストファー大学）音楽療法の精神生理学的研究，WPA（世界精神医学会）などでWHOシンポジウムを共催
3. 古谷悦子（北海道大学歯学部）17-KS-S, 17-OHCSを用いたストレス状態の計測法の開発の研究



4. 本多和夫（鳥取大学医学部）起立性低血圧の血行動態学的研究，ならびにQOLに対する影響の研究
5. 村山良介・青山幸生（東邦大学医学部）慢性疼痛患者への全人的アプローチの研究
6. 白島 庸（東邦大学医学部）鍼治療の科学的評価の研究

## 10 産学共同研究

	平成14年度
産学共同研究	0件

## 11 受 賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 全人的医療モデルに関する国際的合意，現代医学，伝統的東洋医学，心身医学の相互主体的鼎立に関する研究

全人的医療は今後の世界の医療に取り，重要なテーマであるが，その具体的方法論は目下，模索中である。我々はDay, S. の唱えた全人的医療モデルであるbio-psycho-social modelに加え，人間の実存性に根ざしたexistentialな視点を導入し，bio-psycho-social-existential modelを国際的に提唱してきた。また，その実践のためには現代医学（慣行医学），伝統的東洋医学，心身医学の鼎立が必須である。その相互主体的鼎立のための具体的方法論，評価法の検討を行っている。また，パリント・グループなどを通じ，医学教育にも貢献してきた。

2. 尿中17-KS-S, 17-OHCSを用いたストレス状態の計測法の開発の研究

Selye, H. により提唱されたgeneral adaptation syndromeに基づき，生体（ヒト）の受けるストレスの度合いと，それに対する生体の抵抗性についての科学的評価を，尿中17-KS-S, 17-OHCSを用い，検討してきた。17-KS-Sの前駆物質であるDHEA-S(dehydroepiandrosterone sulfate)は，anti-cortisolとして国際的に再認識されつつある。現在，さまざまなストレス状態におけるこれらの値を検討しているが，癌末期では17-KS-Sが低値を，17-OHCSは高値を呈することが明確になった。神経性食欲不振症や鎮痛剤中毒患者では，病態に応じて，両者が低値を呈することが明らかになってきている。DHEA-Sや17-KS-Sについては国際学会が誕生し，我々も参加している。各種補剤や心理療法の17-KS-S, 17-OHCSによる評価を行っている。

3. 非侵襲的血行動態測定方法に関する研究

起立性低血圧などにおける血行動態学的研究は機能的病態に対する積極的な評価法である。我々はSchellongの起立試験に伴う血行動態反応を検討してきたが，この方法が各種疾患に特異的な反応を呈することから，本法の臨床的活用の一般化が求められてきている。難治性アトピー性皮膚炎，慢性疼痛などでその特異的反応パターンが確認されてきている。

4. 慢性疼痛に関する全人的医療の方法論の開発

著しくQOLを低下させる慢性疼痛に悩む患者は多く，反射性交換神経性萎縮症（RSD）はよく医

療裁判にもなる疾患である。一方、慢性疼痛は全人的医療モデルを容易に駆使できる疾患でもある。身体・心理・社会・実存的に多面的に患者を理解することが求められる。また、血行動態不良症候群や17-KS-Sなども関与する生体の包括的なhomeostasisの破綻がその基礎にある。その評価、ならびに治療への貢献は重要な医療上の問題である。国際疼痛学会、日本慢性疼痛学会、日本疼痛学会、心と体の痛み研究会、疼痛漢方研究会など通じて、その成果を発表してきた。

#### 5. 伝統的東洋医学の科学的評価

漢方方剤、鍼灸などの方法は今日、アジアだけのものではなく、国際的になった。その科学的評価が大きくなされつつある。我々は循環器学的方法や、神経内分泌学的方法を用いて、積極的に評価してきている。鍼の作用機序、漢方方剤の生体への影響の評価などが徐々に解明されつつある。

#### 6. 実存分析を基礎にした実存心身療法の開発の研究

心理療法は多々あるが、人間の実存性に則ったlogotherapyは体験療法としてもっとも重要な意味を持つ。我々は神経性食欲不振症やRSDなどの難治性の疾患を有する患者に本法を用い、成果を挙げている。また、こうした心理療法の生物学的評価、つまり精神神経内分泌学的方法による評価が開発された。

#### 7. 音楽療法のハード、ソフト面における開発と評価

音楽療法用のハード、ソフトの開発を患者の個別性を尊重しながら選択できるようにするため、行ってきた。また、その客観的評価を精神生理学的方法で行ってきた。成果は世界精神医学会、日本心身医学会などで発表してきた。

### 13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 音楽療法ソフトウェアの開発
2. 心理療法の精神生理学的評価

### 14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 全人的医療モデルは我々独自のモデルであるが、国際的に容認されてきている。また、伝統的東洋医学も全人的医療の文脈の中で、心身医学的アプローチをinterfaceにしながらその効果を発揮できることは国際的に合意に至っている。その評価法として非侵襲的血行動態の測定法や、17-KS-S、17-OHCSの測定などは新しい医学的方法として国際的にクローズアップされてきている。また、医学教育の面からもこうした全人的医療の方法論は重要で、WHOもスピリチュアル・ケアとして推奨してきている。方法論の評価法について開発してきた。
2. 全人的医療の実現にはPathogenesisなモデルのみでは問題解決しない。Salutogenesisなモデルの導入が必須である。そこに伝統的東洋医学が導入できる。また、心身医学は心身一元論によりこのモデルに導入できる。新しいモデルはパラダイムシフトを起こすだろう。

### 15 新聞、雑誌等による報道